



かわら版が200号を迎えました!

「はな街道」の活動に関するご報告を「はな街道かわら版」としてお送りさせて頂いておりますが、今回ついに200号の発行となりました。日頃の皆様のご協力・ご支援に改めて御礼申し上げます。

関係者の皆様から、沿道花壇の花苗の選定やイベント活動はどんなふうに企画されているのか?とか、どんな人が運営に携わっているの?といった質問を頂きます。そこで、この200号では、「はな街道」事務局の紹介をいたします。

また、裏面では、毎年冬の花として親しんで頂いている、“パンジー”の、意外と知られていないお話を紹介いたします。これからは、少し違った見方で楽しんでいただけますように・・・!

はな街道事務局の活動紹介

毎月開催している事務局会議には、ボランティアとして参加していただいている地元企業の方々に加え、園芸の専門家及び東京国道事務所の方、約20名の方に参加して頂いております。その中で、沿道花壇に植え付ける花苗の選定やクリーンウォークや地元小学生の花植え等のイベント企画について協議しています。

ここ数年は、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックの開催に併せた沿道花壇や日本橋「花の広場」の植栽について工夫を凝らしてきました。日本橋「花の広場」については、都心の公共空間でも自然や季節の移ろいを感じていただけるように活動を継続する予定です。

最近の課題は、「水やり」についてです。ここ数年は気候変動の影響もあり、路面の熱さや乾燥がひどくなり、特に夏場は、「水奉行」の皆様のご尽力による水やりだけでは間に合わない時には、一日2トンの再生水を散水車を手配して灌水している状況です。

このように、大変厳しい環境の中でも、美しく育ってくれる花苗の選定や植栽方法等について事務局員で協議し改善に努めております。

今後も、クリーンウォークや地元小学生の花植え等のイベント活動を通して、地元企業や地域団体の皆様と共に美しい街並みの形成に貢献していきたいと考えております。「花奉行」・「水奉行」を始め関係者の皆様には、今後も「はな街道」を見守ってくださるようお願いいたします。



中央通りの植物見学・その1「パンジーを観察してみよう♪」

背中を丸めて歩く寒空の頃に、中央通りの衣替えが始まります。

冬の寒さに強く桜の葉が芽吹く頃まで咲き続ける植物…パンジーの植栽が始まります。

見慣れているパンジーについて、少し植物の話をしましょう。

パンジーは19世紀に園芸種が誕生して以来、世界的に品種改良が進んでいる植物です。寒さを経験することで、根を沢山育て、葉の数を増やします。地面の温度が上がり始めると、葉っぱの数だけ花を咲かせるのが特徴の植物です。なので、冬に植える必要があり、春の終わりまで花が咲き続ける植物になります。



白の花色に紫色のリボンがついた感じ



「パンジー」と呼ばれるきっかけは、考えているような表情に見える黒い模様からで、この黒い模様は、人の手によって作られた品種の模様です。作出された当時は話題を呼んだことと思います。この模様…よく眺めると、顔のようにも、酸っぱい顔のようにも、大きなリボンを結んでいるようにも、色々な表情を感じることが出来ます。

花形が直径5センチ前後の中輪咲き



顔のように見える黒い模様

模様がない方がスッキリとして良い…の声を聞けば、模様をなくす品種改良をし、俯き加減に咲く姿では花がよく見えない…の声を聞けば、上を向いて花を咲かせる品種改良を行うなど…人の暮らしに溶け込んできた植物と言えるでしょう。

最近の品種の特徴は、寒さを経験して根を育てている期間も、花を咲き続ける品種や、花びらがフリルになって華やかさのある品種。色数も増え、花の大きさもバリエーションが増えました。



すっぱい顔に見える模様

ただ一つ、どうしても変えられないのが、花の中央の黄色部分です。

どんな花形になっても、花色になっても、どうやっても黄色が残ります。その黄色を生かした花色や花形を、今後の育種技術でデザインされていくのだと思うと、この先100年後の姿にワクワクする植物でもあります。何気なく植えられている花にも、生まれた背景があり歴史があります。街の彩とともに、想いに耽って観察をしていただければ…と思います。

✽ SHIORI SUGII はなぐみ ✽

